

13年後、繁栄する アジアの実現に向けて

内閣府 須賀 昭一

1. はじめに
2. 2025年のアジアおよび中国のイメージ
3. 日本の役割:何をすべきか?何ができるか?
4. アジアが抱える最大のリスク:中国
5. 2050年を見据えた2025年に向けた提言
6. 必要とされる価値観の転換

◆はじめに / 議論の前提

平和とは？

リスクを可視化し、コントロール下に置く状態

2050年？

38年前:1974年(中国:文革末期、72年日中共同声明、79年国交正常化)

13年前:1999年(ユーロ導入、コソボ空爆、中国:97年鄧小平死去、香港返還)

38年後及び通過点である13年後の日本と世界の姿をイメージ？

38年後のイメージは主観的な「空想」に近い

13年後の姿を想定し、38年後を見据えた具体策を提起

検討方法

設定するゴールに至るプロセスでのリスクを浮かび上げらせ、ひとつひとつ検討

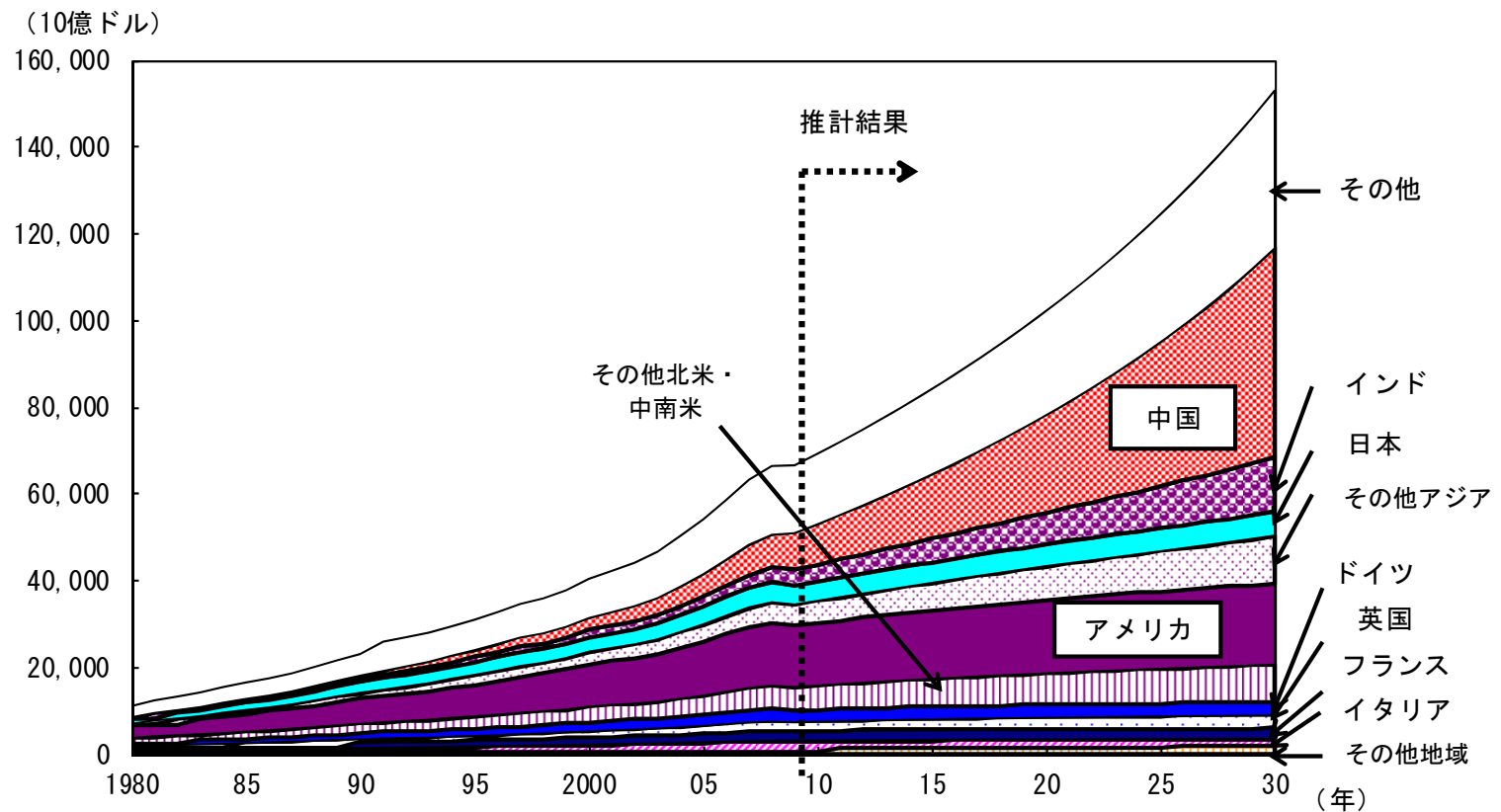
議論のゴール

経済的視点を中心に中国及びアジアとの未来を考える

2. 2025年のアジアおよび中国のイメージ

(1) 高成長をとげて生活水準向上: 豊かで成熟したアジアへ

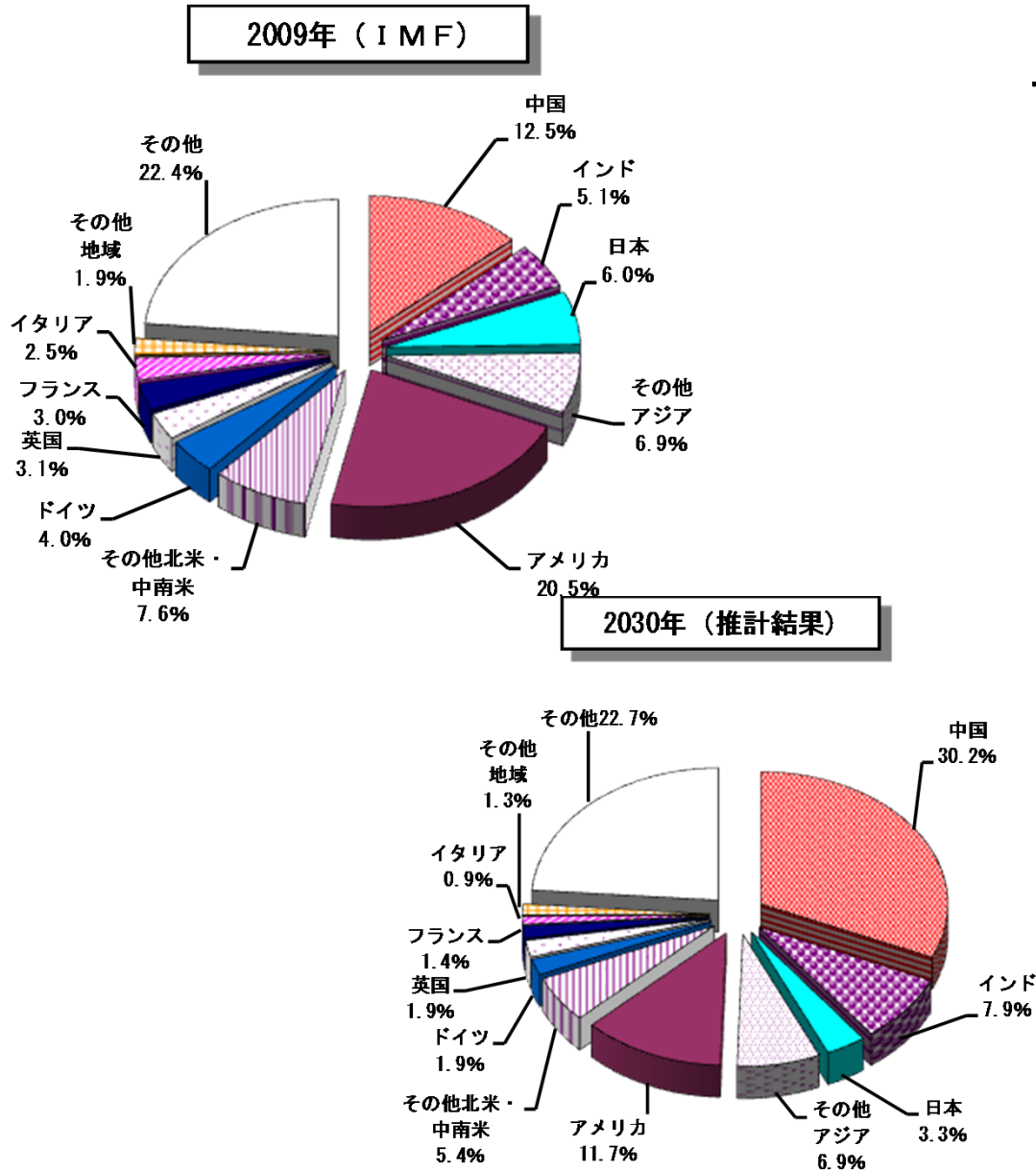
GDP(PPPベース)の長期見通し: 中国が大きく増加



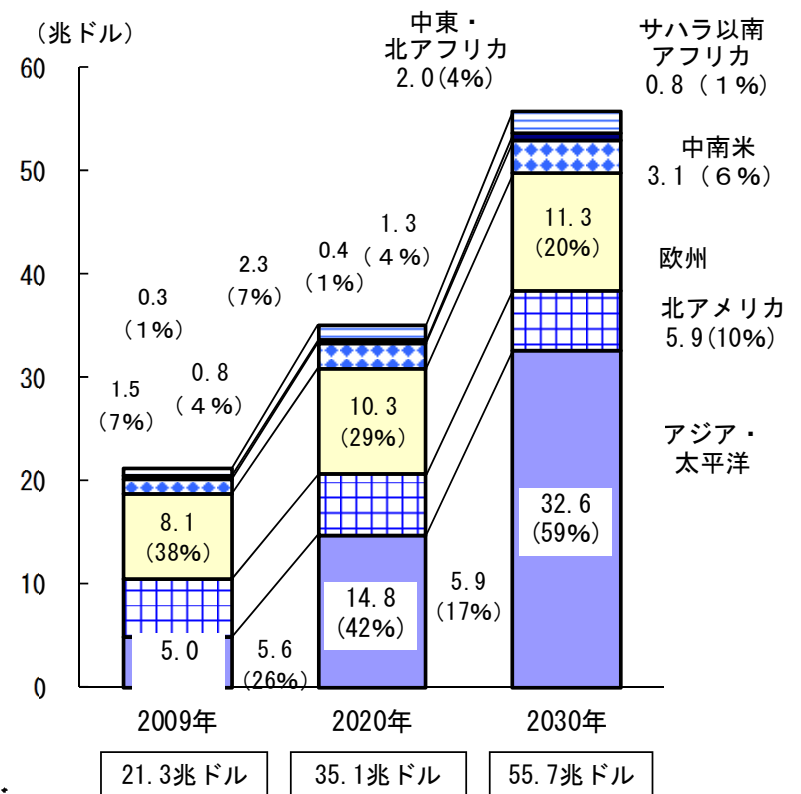
(出典) 内閣府[2010]『世界経済の潮流 I』

2. 2025年のアジアおよび中国のイメージ

GDP(PPPベース)シェア変化:中国が大きく増加



中間層の地域別消費額予測: アジア・太平洋地域の増加が顕著

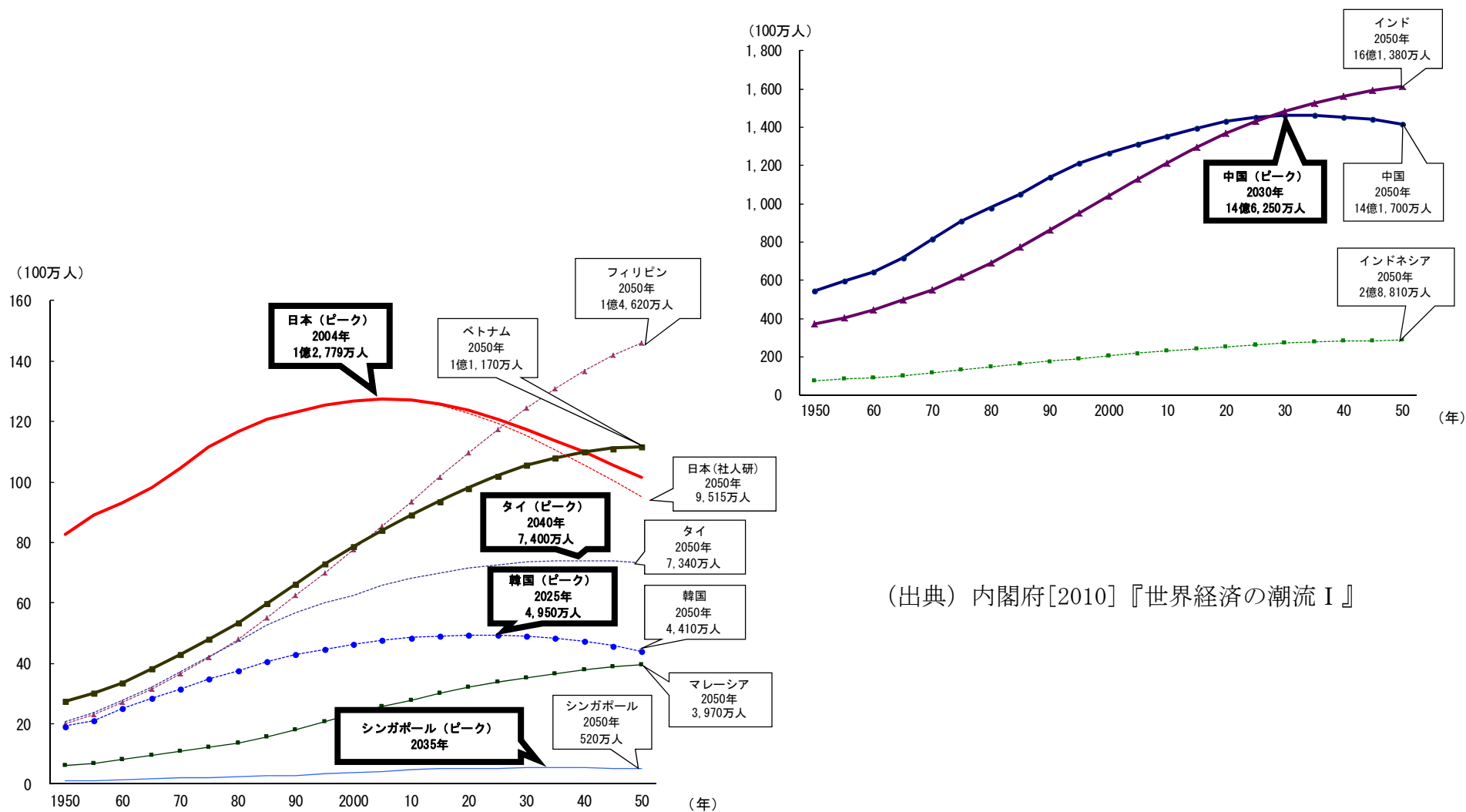


(出典) 内閣府[2010]『世界経済の潮流 I』

2. 2025年のアジアおよび中国のイメージ

(2) 高齢化社会へ：老いゆくアジア

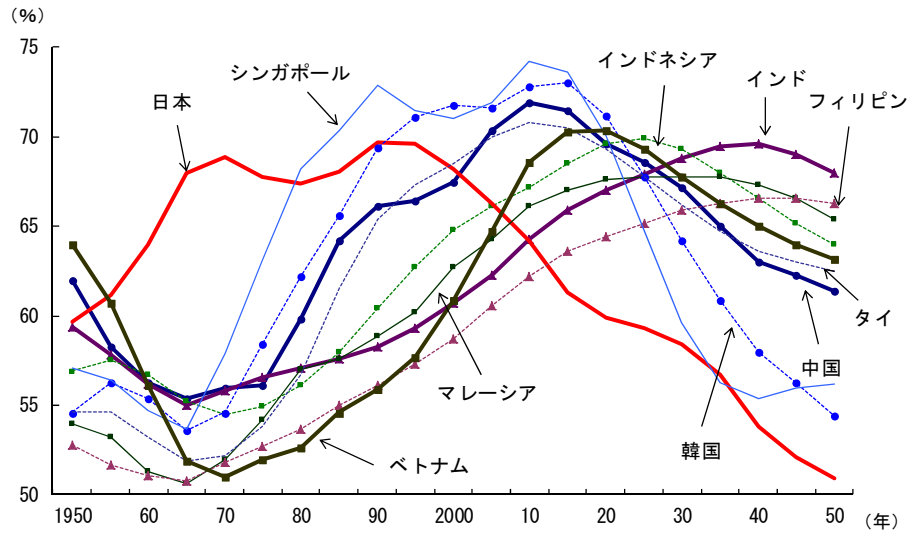
アジアの総人口の推移：多くの国で減少へ



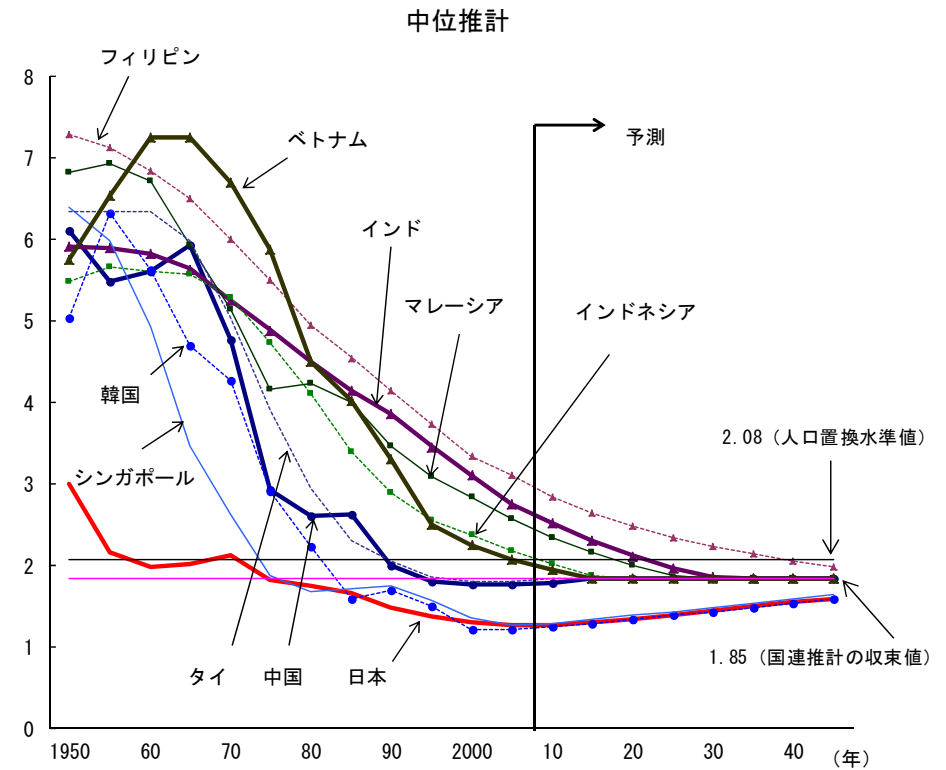
(出典) 内閣府[2010] 『世界経済の潮流 I』

2. 2025年のアジアおよび中国のイメージ

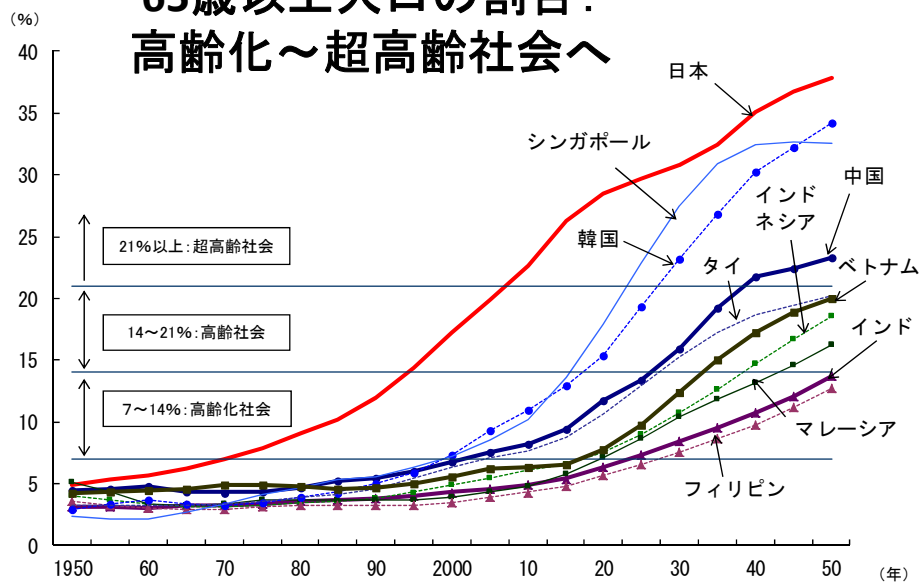
生産年齢人口の割合：増加から減少へ



合計特殊出生率の推移：低下が進む



65歳以上人口の割合：高齡化～超高齡社会へ

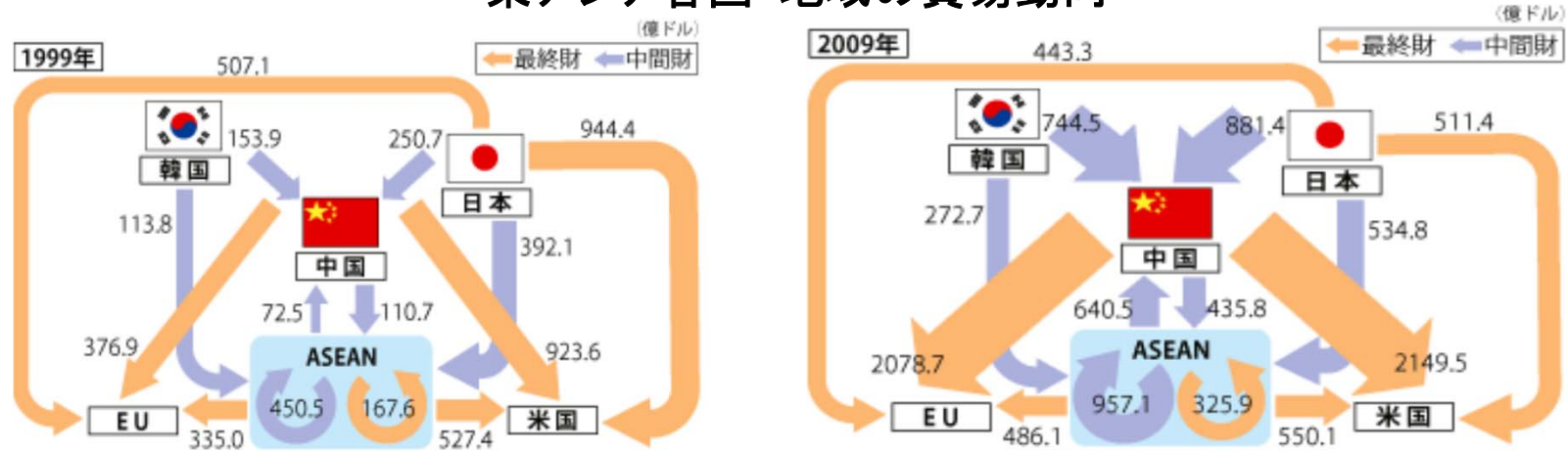


（出典）内閣府[2010]『世界経済の潮流 I』

2. 2025年のアジアおよび中国のイメージ

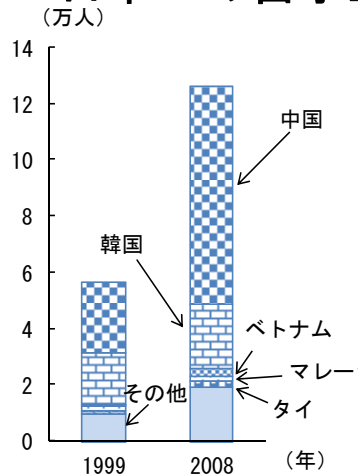
(3) 日本とアジア: ヒト・モノ・カネの流れの緊密化

東アジア各国・地域の貿易動向



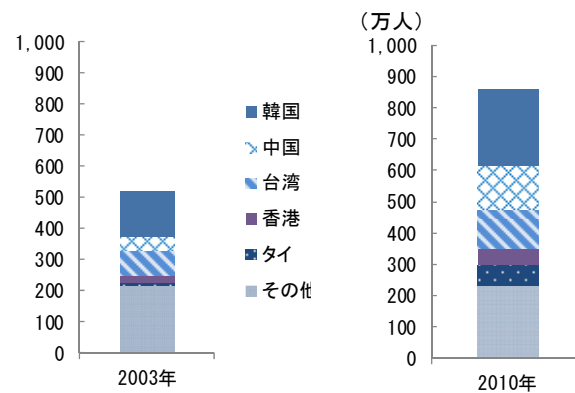
(出典) 経済産業省[2010]『通商白書』

日本への留学生



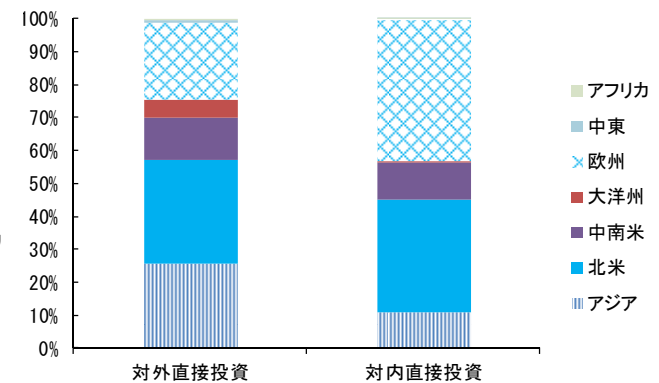
(備考) UNESCOより作成。

日本への観光客



(備考) 日本政府観光局より作成。

直接投資の動向(2010年、地域別)



3. 日本の役割:何をすべきか?何ができるか?

日本とアジアは相互補完関係

アジアにあって日本にないもの

高成長のポテンシャル



アジアは日本に成長の機会を与えてくれる

日本にあってアジアにないもの

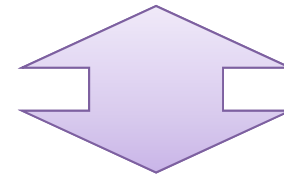
安定成熟した社会・政治経済体制

そこに至るプロセスで得た経験・
広い視野・長い視点で世界を
俯瞰できる余裕



日本はアジアの成長の潜在力を引き出す

- ・日本はアジアのリスクがよくみえる
- ・高成長はできないが、アジアが抱えるリスクをコントロール調整し、アジアの経済成長の潜在力を最大限引き出すことができる



4. アジアが抱える最大のリスク: 中国

(1) アジアの経済発展は中国次第

東アジア各国・地域の主要貿易相手国

東アジア各国・地域の貿易依存度

(2009年、%)

国(地域)	輸出依存度	輸入依存度
日本	11.4	10.8
インドネシア	22.1	17.2
韓国	43.4	38.8
シンガポール	151.8	138.3
タイ	57.5	50.9
フィリピン	23.8	28.4
マレーシア	82.1	64.4
台湾	53.7	46
中国	24.5	20.5
アメリカ合衆国	7.4	11.3
ユーロ圏	14.4	14

※国内総生産に対する輸出額及び輸入額の割合

輸出相手国

国(地域)	1位	2位	3位	4位	5位
日本	中国	アメリカ	韓国	台湾	香港
韓国	中国	EU	アメリカ	ASEAN5	日本
シンガポール	香港	マレーシア	中国	インドネシア	EU27
タイ	ASEAN	EU	中国	日本	アメリカ
マレーシア	シンガポール	中国	EU	日本	アメリカ
台湾	中国(含香港)	アメリカ	日本	シンガポール	韓国
中国	EU	アメリカ	香港	ASEAN	日本

輸入相手国

国(地域)	1位	2位	3位	4位	5位
日本	中国	アメリカ	オーストラリア	サウジアラビア	UAE
韓国	中東	中国	日本	アメリカ	ASEAN5
シンガポール	EU27	アメリカ	マレーシア	中国	日本
タイ	日本	ASEAN	中国	中東	EU
マレーシア	日本	中国	シンガポール	アメリカ	EU
台湾	日本	中国(含香港)	アメリカ	韓国	サウジアラビア
中国	EU	アメリカ	香港	韓国	台湾

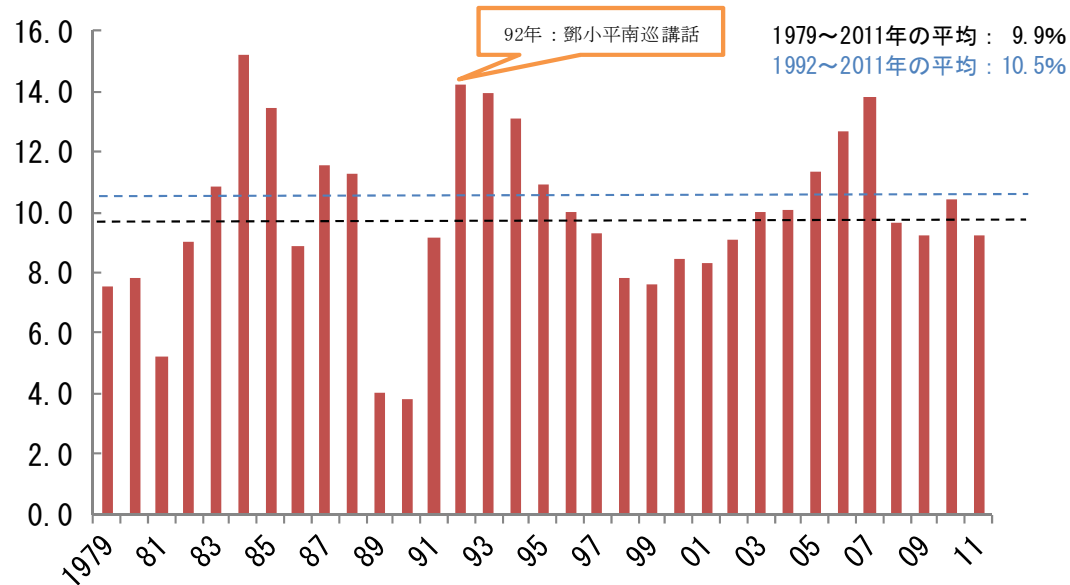
※2010年のデータ(日本、台湾、シンガポールのみ2009年)

(出典) 総務省統計局及び各国統計

4. アジアが抱える最大のリスク: 中国

(2) 中国の高成長時代は終焉へ

実質経済成長率の推移: 30年以上、10%前後の成長を継続



潜在成長率の予測値: 緩やかに低下

(年、%)

	2011-15	2016-20	2021-25	2026-30
世界銀行・国務院発展研究センター(2012)	8.6	7.0	5.9	5.0
李善同・何建武(国務院発展研究センター:2011)	7.9	7.0	6.6	5.9
胡鞍鋼(清華大学:2011)	8.9	8.5	7.4	6.9
内閣府 世界経済の潮流(2010)	9.1(2010-19)		7.9(2020-29)	

4. アジアが抱える最大のリスク: 中国

「中所得国の罭」(世界銀行、2007年)

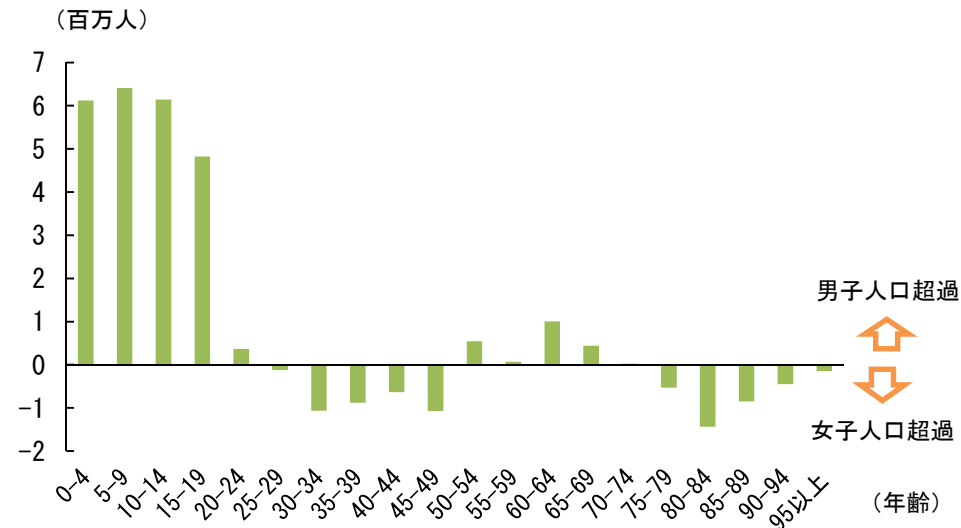
- ・新興国が「中所得国」まで経済発展を遂げた後、発展の過程で蓄積された問題が足かせとなり、その後の経済発展が停滞するという概念。
- ・現在中国でも、これについてさまざまな議論がなされている。

4. アジアが抱える最大のリスク: 中国

人口・労働力問題

労働力不足: 2015年頃から労働力人口減少へ
少子高齢化: 2025年頃から高齢社会へ
男女比不均衡: 2025年には顕在化

男女人口差(2009年): 19歳以下の男子人口が大幅超過



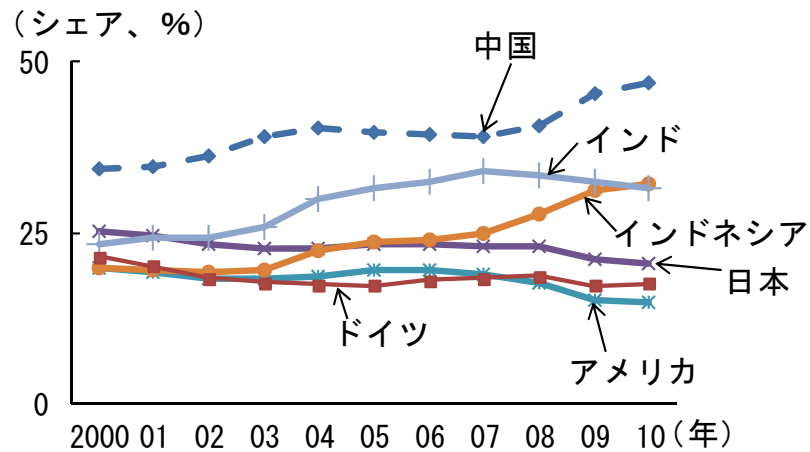
(備考) 国家統計局より作成。

4. アジアが抱える最大のリスク: 中国

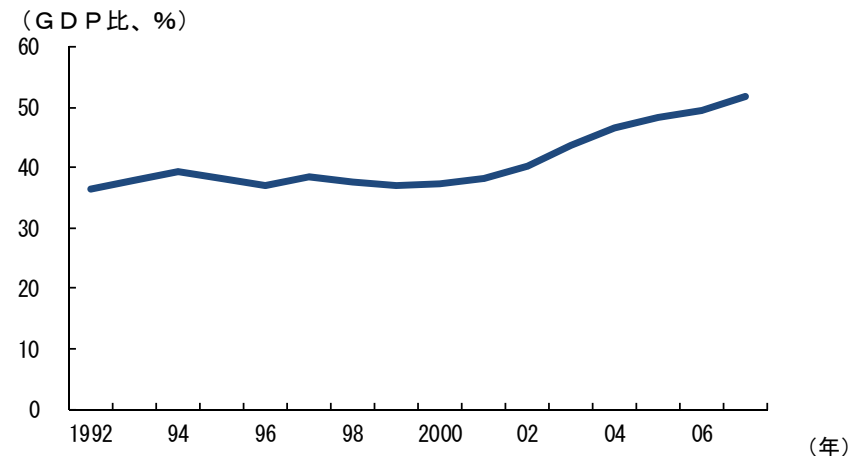
資本投入をめぐる問題

投資主導成長パターンの限界: 不動産価格高騰・
過剰設備投資
高齢化に伴う貯蓄率低下が予想される

総固定資本形成(対名目GDP比)の推移



国内貯蓄率

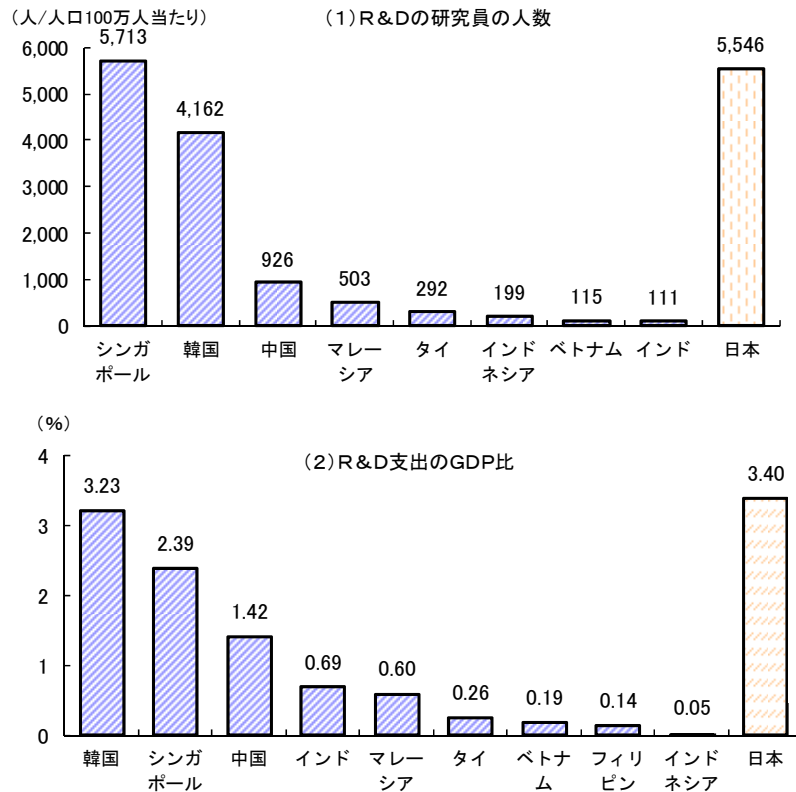


- (備考) 1. 国連統計より作成。
2. GDPに占める総固定資本形成の割合は、
総資本形成 (GDP需要項目) / 名目GDPで計算。

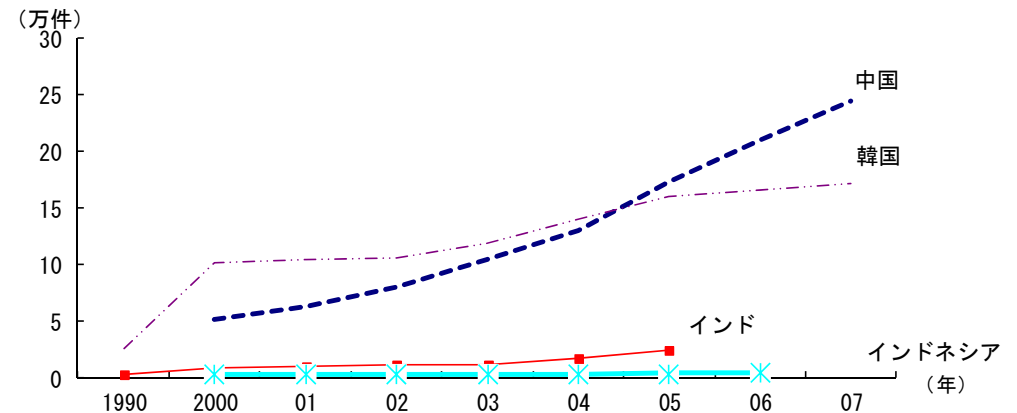
4. アジアが抱える最大のリスク: 中国

技術力欠如をめぐる問題

安価な労働力に依拠した労働集約型から
高付加価値型の産業形態へ転換を模索



中国の特許出願件数の推移



(備考) 世界銀行“World Development Indicators”より作成。

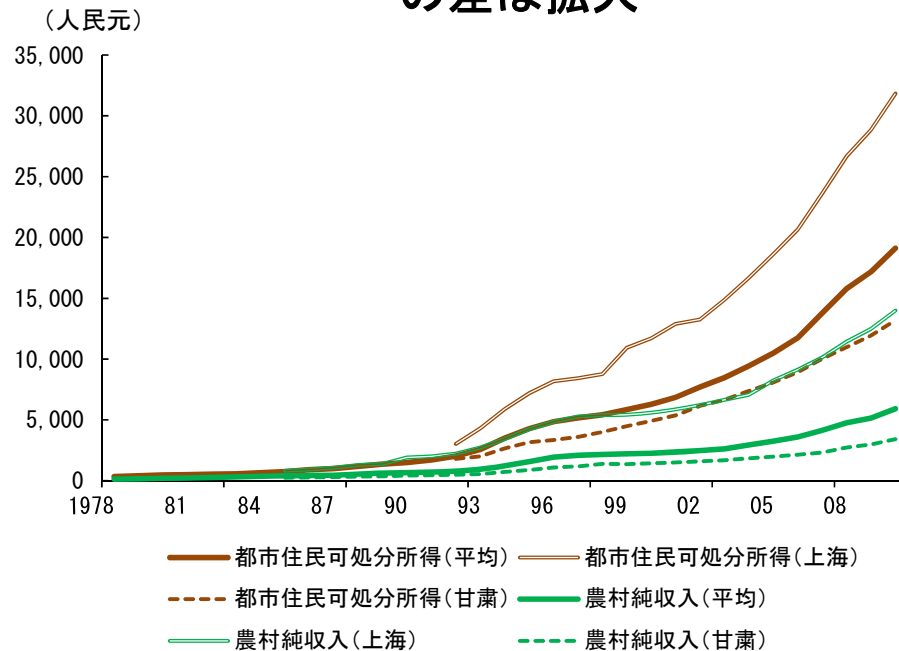
(備考) 世界銀行“World Development Indicators”より作成。

4. アジアが抱える最大のリスク: 中国

貧富の格差をめぐる問題

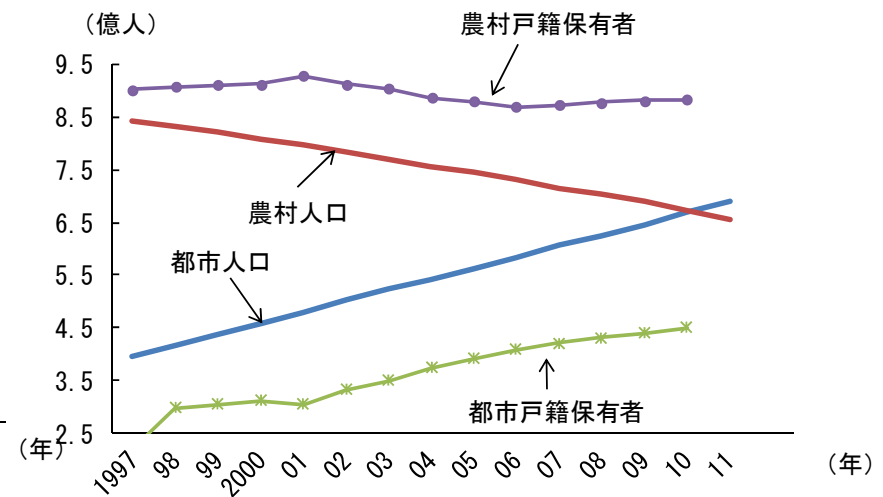
地域間・都市農村間の格差が拡大 戸籍制度の矛盾が拡大

地域間・都市農村間の所得水準 の差は拡大



(備考) 中国国家统计局より作成。

都市・農村人口の推移: 戸籍と居住地の乖離拡大



4. アジアが抱える最大のリスク: 中国

【その他中国が抱える問題】

- 環境問題
- エネルギー問題
- 食糧問題 …



「経済超大国」中国の姿は、以上の問題を
克服しなければ実現は困難

5. 2050年を見据えた2025年に向けた提言

日本は**経済的に最大限中国を利用**するとともに、「**戦略的に**」中国の弱点を補完し、安定した成長軌道に乗せる

一方で、日本の「魅力」が減少し、弱みがなくなる中国



「モノ・カネ・ヒト」を中国へ進出のみならず日本に引き入れる

→ 規制緩和をさらに進め、日本市場を利用させる

成熟大国のモデルとしての日本の価値を高める

→ 技術や経験を提供：成熟大国化のプロセスで発生した問題を克服⇒**産業化**

→ 現在取り組んでいる社会問題は今後中国やアジア新興国へのカードとなる

効率的なリスク管理・補完関係強化のための枠組み(地域共同体)構築の可能性

6. 2050年に向けて:必要とされる価値観の転換

地域共同体を構築していくために
変えていくべき日本人の価値観



- ◆Japan as No.1の栄光に引きずられたまま、**過去を基準に**
現在や未来を語る日本人
- ◆**明治の中国観・アジア観**を拭え切れていない日本人
- ◆日本を取り巻く**アジアのダイナミックな変化**に十分に
ついていっていない日本人